

もっといきいき健康に！地域がつながる医療と介護を目指して

帰巖会

ご自由に
お持ち帰りください

かわら版

2023.7.1

July

vol. 85



三重町駅（豊後大野市三重町）

直行団吉野診療所 所長 中野俊彦

コンテンツ

巻頭言

退院後の生活をイメージした新たな取り組み
—— 早朝・夕方夜間のリハビリを強化 …… 2

大好きな臼杵市で地域医療に貢献します …… 3

櫻～たすき～ はちみつ菓子工房 くにみ …… 3

うすきの歴史③② …… 4

元気な地元クローズアップ/時事寸感 …… 4

言 / 頭 / 卷

ごあいさつ

社会医療法人帰巖会理事長

松山 幸弘



私が白杵病院に赴任し3ヶ月が経ち今年も半分が終わりました。これまで3年間にわたり様々な活動に制限をもたらししていた新型コロナウイルス感染症は5類に変更となり2ヶ月が過ぎようとしています。暮らしの中で多くのことがコロナ以前に戻りつつあります。街に出ると行き交う人々のマスク装着率が徐々に低下していくのを見て実感できます。中でも子供たちの生活が生き生きとして鮮やかなものに変化したことを強く感じます。私の住む地区では夏祭りで披露されるお囃子の練習が地区の公民館でお年寄りのご指導の下行われています。子供たちが年長者から年少者まで入り混じって仲良く時に大笑いしながら練習している姿を見ると、キラキラしていて、ああ、これこそが日本の原風景だなあと感じるのです。本番まではまだしばらくありますが、4年ぶりに開催されるお祭りが無事に迎えることができるようにと願うばかりです。不安な材料としてはやはり新型コロナウイルス感染症の流行の兆しです。沖縄県では感染者数の増加のため救急医療体制がひっ迫しております。昨年からの初めにかけての流行期には大分県内でも救急搬送困難事案が発生しました。再びそういった事態に陥らないよう一人一人が感染対策を怠ることのないように今一度、気を引き締めましょう。

退院後の生活をイメージした新たな取り組み

—— 早朝・夕方夜間のリハビリを強化

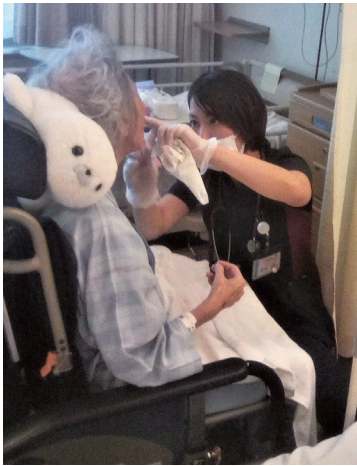
通常入院患者さんのリハビリは概ね8:45～17:00の間で活動しています。6月よりいわゆる早番・遅番時間帯でリハビリを追加して行うことにしました。7:30～8:30に2名、17:30～18:30に1名を配置予定です。同じくして介護福祉士も1名病棟に配置されます。

目的

退院後の生活を常にイメージして看護・介護・リハビリは行われますが、入院生活において朝の支度（モーニングケア）、就寝前の支度（イブニングケア）と重なります。この時間帯に行われる一連の動作練習を集中的に実践し、退院後の生活にスムーズかつ安全に移行する為です。

リハビリの具体例

在宅において定時に起床して着替え、洗顔、歯磨き、朝食という一般的な流れは



1日の活動をスタートさせる重要な位置付けです。動作的には①臥位から起き上がり②腰掛座位保持③立ち上がり④立位保持⑤歩行移動⑥立位の諸動作⑦巧緻（細かい）動作⑧食事動作等多岐に渡ります。患者さんの状態に合わせて安全に行えるように練習します。

連携・協働

患者さんの状態等はカンファレンスという話し合いで各職種間共有されます。それを基に専門職が専門職たる計画を立てます。リハビリでは前述の重要な動作の評価・練習となります。看護・介護や多くの職種が同様に患者さんを中心とした計画が立てられます。他職種連携や他職種協働と呼ばれみえ病院でも以前から取り組んでいますし、今や珍しいことではなく当たり前になるべき事なのです。

より良い病棟運営に寄与

病棟では看護師・医師・リハビリスタッフ・介護職・ソーシャルワーカー・管理栄養士・事務職と多くの職種が並行して業務にあたりますが、大切なのは専門職が専門職しか出来ない業務に携われる時間を多く確保する事です。夜勤業務の看護・介護職においてはイレギュラーな対応を求められることが多くあり、その状況を作り出すことが難しい事も有ります。と

帰巖会統括リハビリ部長 石丸 知一



りわけ早朝で患者さんが覚醒する時間は同時刻にモーニングケアが必要となり忙しくなります。

今回、リハビリ部の取組みでは早朝から2名のスタッフが業務することで2～4名の患者さんを直接見ていくことが可能になりますし、仮に同室者がナースコール押したときもその場で最初の対応が出来ます。間接的にはありますが夜勤者への支援にもなります。早朝にリハビリスタッフが行うリハビリだけを導いては導入の意味がありません。他職種の業務へも目を配りながら、少しのオーバーラップした業務が必要です。それが出来るリハビリスタッフで無ければいけません。

今回の取組みは当然ですが、入院患者さんが安全で快適で専門的治療やケアを受けられ、早期の退院を迎えられることに通じています。

大好きな白杵市で地域医療に貢献します

白杵病院 総合内科・総合診療科医 平林 礼奈



皆様はじめまして。今年度より白杵病院にて非常勤勤務をしております。平林と申します。

私は大分県大分市出身ですが母方の実家が白杵市にあり、幼少時よりたびたびここ白杵を家族とともに訪れ、祖父母や、時には大勢の親戚とともに楽しい時間を過ごしていました。

祖父母や親戚の方々がいたからというのは勿論ですが、何よりこの白杵市の情緒あふれる街並みやそこに住む人々がつくりだすあたたかな雰囲気や幼い頃より大好きで、いつも帰省を楽しみにしていたのを覚えています。このたびは週一回水曜日のみというわずかな時間ではありますが、第二の故郷であるこの町の皆様の健康に微力ながら貢献する機会をいただき、大変嬉しく思っております。

私の専門は総合内科・総合診療科です。医療が目まぐるしく発展し高度に専門科・細分化されてきた流れの中、一見時代に逆行する形ではありますが、「どのような医療環境にも適応でき、その場での最善の医療を提供できる人材を」という医療現場のニーズにあわせて生まれた診療科だと理解しております。私が所属する大分大学医学部付属

病院総合内科・総合診療科の後期研修医向けカリキュラムもこれを体現するものとなっており、これまで大学病院以外にも大分赤十字病院総合診療科、宮崎医院、アルメイダ病院救急科、大分こども病院等、多様な医療現場で研鑽を積む機会をいただきました。ある程度高次の医療機関で診療に携わる期間の方が長かったのですが、宮崎医院では開業医としての一般診療・在宅訪問診療・施設嘱託医の経験も積むことができました。

このように診療の幅広さが売りの科となりますが、それと引き換えに高い専門性を要する診療に限界があるという事は、当科の弱点としてよく挙げられることです。事実、各臓器・疾患ごとの知見・経験の深さについては各科専門の先生方に遠く及びません。自身の得意分野をサブスペシャリティとして選択し専門性を高めていくことは私のこれからの課題のひとつではありますが、それがなくなったとしても総合診療医だけでは到底現代の医療は成立しません。各科専門の先生方におきましては診療についてのご助力を仰ぐことがしばしばあるかと存じますが、私がカバーできる範囲の診療には全力で取り組み、この地とともに医療を行うチームメイトとして信頼いただけますよう尽力してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

くたすき 饅

白杵編 File 4

人から人へ饅で繋がっていく
はちみつ菓子工房 くにみ
オーナーシェフ 若林 等さん

“はちみつ”を取り入れたお菓子を創作し、ご両親の名前から“くにみ”としたことに若林オーナー夫妻の深い意思を感じます。

これから……

今までもこれからもお店の在り方を考え続けている若林さん。その一つが店で働くスタッフのこと。この白杵に限らず高齢化が進む中、働きやすさとは何かを考え、日曜日、月曜日を定休日になりました。メリハリをつけた働き方でリフレッシュしてほしいといいます。また多数の人気商品がありますが、新しい視点で地域にマッチしたお菓子を生み出すことに取り組んでいます。優秀なパティシエでもある奥さんに「センスは僕より上」とおっしゃいます。オーナーシェフ若林さんと共に挑戦してきた奥さんと力を合わせこれからも前進します。近日中にきっと新作発表がありますよ！お楽しみに……

(取材 帰巖会 橋本茂子)



お店の情報
はちみつ菓子工房 くにみ
〒875-0052 大分県白杵市市浜1191-1
電話番号：0972-62-4618
Instagram：@KUNIMI-CAKE

今月は「はちみつ菓子工房 くにみ」オーナーシェフ 若林等さんのご紹介です。



白杵市の国道502号沿いの工房を訪ねました。開店から28年のお店はバターやはちみつの香りに包まれ、ドアを開けるとお菓子の数々が迎えてくれます。かわいいクッキー、魅惑的なケーキ、表情豊かなパンなど様々なお菓みに魅了されます。

技術を自分に叩き込む

オーナーシェフ若林さんのお父さんは養蜂家であり経営者です。こどもの頃、学校から帰ると待っていたように「手伝えるか」と、声を掛け、将来の後継者として期待していたのですが、若林さんはお菓子の世界に進みます。

「後悔したくない」と、都会の一流店で修行をスタート。休みの日は他のお店で、無給で働きます。技術を身につけたい一心だった若き日。地道な修行を経て28歳で白杵に帰郷し自身のお店をオープンさせました。決めた夢に命を燃やした日々。その情熱は今も若林さんを支えています。

華やぎのシーンに欠かせない洋菓子ですが、味や素材、そしてデコレーションの組合せによってバリエーションが広がります。「大分県洋菓子協会」の会長を務めるなか、後輩の育成においても、基礎的な技術、知識の積み重ねが大事と伝えてきました。

店名の由来

両親が期待した道を歩まなかった若林さんでしたが、信じて見守ってくれた両親には感謝と尊敬の念があり

江無田・戸室地区

江無田台・田篠台・戸室台は、昔から、水ヶ城山を背に、眼下に白杵湾と、山と海での狩猟採集に適した地でした。大友氏の時代には、城下に屋敷や寺が建つなか、この地域は、静かな佇まいの場所を残してきました。江戸期は、「江無田組」として、五村で構成されていました。(江無田、門前・田篠・市浜・戸室の各村。江無田村に、庄屋が置かれた。)

江戸時代からの酒造「二乃井出」

寛永年間(一六二四-四四)、初代の久家仁右衛門が、肥前より白杵に移り住み、元禄の頃に酒造を始めたとされています。後に、藩内屈指の豪商となり、藩の町年寄り役等も務めました。万延元年(一八六〇)、十一代源四郎が、末広川沿いの白杵藩の酒造蔵を譲り受けました。十三代常蔵の時(大正時代)に、清酒「二乃井出」の発売を始めました。

①常蔵氏は、歴史書「白杵小鑑」を復刻発行し俳人でも文化人。十四代源次氏の時、麦焼酎「石仏」を発売。「入家の大蔵」は、ポルトガルのタイル壁画を施す。「二乃井出」とは、一番目の井出に由来する。

江無田組の庄屋の屋敷跡

庄屋・平川家の屋敷跡は、現在A氏の居宅で、一の井出酒造工場横の道を上るとすぐの所。高い石垣と入口が目を引く構え。昔の「お成り御殿」をもつ家屋が、最近まで見られました。

②註白杵藩の庄屋は、長年統治してきた

大友氏の嘗ての配下が多く任命されました。記録に、江無田庄屋の平川源内が、井村庄屋の平山郡左エ門と末広庄屋の吉田広治とで、大野組と藤河内組の水利権の争いを解決したことが書かれています(文政十一年)。源内は、白杵に來た伊能忠敬一行の測量世話役を務めました。



一乃井出酒造遠望



江無田組庄屋屋敷跡

大友家臣の建立「江無田観音堂」

一の井出工場からすぐ傍。海徳院とも称し、寺社考に、「海徳院成願寺田篠村 古来本尊観音安置小堂。古跡由縁不詳」とあり、

由緒から、江無田に住んだ大友家臣の「白杵氏」と、その末裔・平川氏(大庄屋)との関係が伺えます。

③開基は承久三年、大友公家臣水上城主(田篠居住)白杵四郎惟氏末孫市左衛門統久」とある。他に、「大友公家臣平川伊左衛門末孫平川源内」とも。旧跡観音堂修補之、文化五年落成。平川氏所有主張也。大友直正建立之。」との記載もありま



白杵統久は、白杵氏22代で文化11年歿の人。上は、江無田観音堂

元気な地元 クローズアップ

大分県立白杵支援学校(白杵市井村)

いむらの丘に知的障がいをもつ児童生徒が通う大分県立白杵支援学校があることをご存知でしょうか?小学部・中学部・高等部の3学部が設置されており、本年度は、全児童生徒59名が在籍しています。学校教育目標に「自ら学び、たくましく柔軟な心と体を安納、自己選択・自己決定により、個性豊かに生きる人間の育成」を掲げ、その達成に向け一人一人の特性に合わせた指導・支援を行っています。また、高等部卒業後の就労に向け、県内特別支援学校の中でも最も広い農場を活かした農作物づくりや事業所等での現場実習を行うなど、様々な勤労体験を重ねることで社会人としての生きる力の育成と働く意欲を培い、一人一人の適正に応じた進路実現を図っています。さら



に、本校は特色ある地域と共にある学校をめざしており、地域資源の竹や地域人材等白杵市の良さを活かした教育活動を積極的に行っています。地域のみならず、ご理解とご協力により、本校農場での大豆づくりと味噌づくり活動が今年で5年目を迎えました。病院とも連携を図っており、児童生徒に対しては、定期的な健康診断、修学旅行など学校行事に合わせた健康チェックや健康相談、また、教職員に対しては、産業医として健康管理にもご尽力いただいております。今後、様々な学校行事も計画しています。ぜひ、お足を運んでいただき、児童生徒の笑顔と真剣さをご覧ください。

時事寸感

マイナンバーカードが迷走しているこの制度、要は国民総番号制で、国家による究極ともいえる個人情報管理法だが、コロナ補助金交付問題で行政の非効率が目につくものだった。そして、カードに、口座番号、社会保険証や年金を紐付けすると2万円あげるという、なんと子供騙しの手法で、国民の7割近くがカードを持つに至っているという。そういつか私市役所に行ったら、今なら直ぐできますよ、写真も撮りますよ」との呼び込みで、魔法にかかったようにカード申請し、その後2万ポイもすっかり貰っているの、偉そうなのには言えない。

しかし図つたように、問題が出始めた。他人の医療情報や口座に紐付いたとか、保険証が使えないとか、あつてはならない不祥事が続出し、河野大臣の説明も空虚感が増す。そもそも紐付けの作業は人間がやっているのが原因で、「消えた年金」と変わらぬ。自分も含め、市役所の窓口にも、大勢の高齢者が通帳などを持参して押し寄せ、年齢の風景からも間違いが起りそう。な一気配は十分漂っていた。

ちよつと前の90年代中頃、労使紛争などで疲れ果て、大阪ではその診療科では有名な某病院を受診した。するとその直後、労組のピラに「労務屋・榎本は病気だ、もうすぐクタバルから頑張ろう」と書かれていたのには往生した。犯人の目星はついてはいたが、決定的な証拠も出せないで、裁判も出なかつたことを今でも忌々しく思い出す。

今発生している「あつてはならない間違い」はこのピラの様な「悪意」のものではないだろう。「善意」でこの有様だから、少しでも「悪意」が混じれば空恐ろしい。「この政策を進めるとこんな問題が発生するから」その解決法は?一霧が関はどうかこの種の想像力が乏しそつなので、今流行のチャットGTPに相談するとか、将棋で言えば「5手6手詰め」の様にも見えるので、この際「5手6手」は普通に読むという、あの藤井名人に「特別顧問」でも頼んでみたら...と。

(帰巖会副理事長 榎本 祥文)